

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 2年 3月 20日

事業所名 摂津市立めばえ園

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点 課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		施設基準に沿ったスペースを確保している。
	2	職員の配置数は適切である	○		施設基準に沿った保育士・児童指導員を確保している。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている		○	利用される訓練室が一部2階であり、階段での移動しなくご不便をかける可能性がある。現状では支障がない状態であるが、対象児が利用される場合は検討の必要がある。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		毎朝夕の全職員による打ち合わせ会議、月1回の正規職員による定例会議を実施し、業務改善につなげている。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	○		福祉サービスの第三者評価を受審(平成29年度)し、業務改善につなげている。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		法人内外の様々な研修を受講し、報告会を実施し職員全員で共有している。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○		個人面談だけでなく保護者が来園時に色々な情報共有の場を設け、保育士、児童指導員、PT、OT、ST、公認心理師等多職種の職員が常駐しており、ニーズや課題を多方面から検討作成している。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		標準化された発達検査を実施し、子どもの状態把握を行っている。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている		○	訓練士(PT、OT、ST)と利用児とのマンツーマンでの利用の為、チームでの立案は行っていないが、療育グループでの活動については、訓練士同士で立案を行っている。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○		
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している		○	訓練士(PT、OT、ST)と利用児とのマンツーマンでの利用の為、集団の活動は行っていない。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している		○	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している		○	
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○		定期的なモニタリングだけではなく、保護者同席で訓練を実施しているのでその際に意見聴取を行っている。
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせさせて支援を行っている	○		

関係機関 や保護者 との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	○		サービス提供については、必要に応じて学校等の先生の見学等を受け入れ、学校生活の状況等を聞いたり助言したりしている。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている		○	必要に応じて茨木保健所、摂津市保健福祉課と連携を行っているが、主治医との連絡体制は整っていない。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	○		
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	○		
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		○	個別での療育・訓練を実施しているので、事業所としては機会は設けていない。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	○		摂津市の子育て支援ネットワーク推進会議に参画している。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達状況や課題について共通理解を持っている	○		
保護者 への説明 責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	○		利用については、必ず保護者の付き添いで実施しているので、いつでも共通理解をとれる状況であり、家庭でのトレーニング等についてもその場で行っている。
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		必要に応じて訓練終了後に助言等を行っている。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		○	個別での療育・訓練を実施しているので、事業所としては機会は設けていない。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○		利用されているお子さんや保護者からの苦情については、どの職員にも声をかけていただけるよう連携を行っています。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している		○	
	35	個人情報に十分注意している	○		個人情報の管理については、常に意識して行動している。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		子どもに向けては、個々の特性に合わせて伝え方に工夫している。保護者に対してもわかりやすく説明している。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○		夏まつり等で地域との交流を行っている。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○	職員に対して各マニュアルの周知を行い、保護者には感染症等の注意文書等を配布している。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○	様々な状況を想定した避難訓練を毎月実施しているが、併設されている児童発達支援センターの活動時間のため、中々参加していただくことがない状況である。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○	定期的に虐待防止の研修を法人全体で実施している。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○	身体拘束は行わない方向で療育・支援を行っているが、支援計画に記載しておらず、口頭での説明程度になっている。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○	食事を提供していない。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○	ヒヤリハットや事故については、終礼時に職員全体で共有している。